

主 題：信仰のレースを走りきる

聖書箇所：コリント人への手紙第二 4章

先週の月曜日、ミシガン州の東海岸にあるデトロイトのすぐ近くのデアボンという町で、IFCAのコンベンションが開かれました。七つのクリスチャンの大学の学長が参加されていましたが、その中のひとりの方が、私も通っていたその大学の学長の話がされました。いろいろなことを思い出しました。もう大昔のことで、今から33年も前のことです。そのときはこのジョン・マイルという先生はお元気で、いろいろなお話をしたことを思い出します。その先生は80歳で働きを引退されて、すてきな家を構えて奥さんと二人で隠居生活を送っておられましたが、あるとき、ワイオミング州のクリスチャンカレッジからぜひ手伝って欲しいという依頼を受けられました。彼は「祈ります」と言われたけれど、実際に祈ったのはわずか30秒ほどで、すぐにその家売り払ってワイオミングへと移っていかれました。アメリカには移動住宅というのがあります。それはトラックの後ろに繋いで場所を移動して行くというトレーラーハウスですが、そこに移り住んでそのクリスチャンカレッジでの働きを始められました。同時に、その町には閉鎖に追い込まれていた一つの教会がありました。その教会の牧会を始めると人が集まって来ました。90歳を超えて立って話ができなくなると、坐ってメッセージをするようになりました。それもできなくなると、つまり、教会にも通えなくなると来ました。すると、教会員が彼の家にやって来て、そのベッドの周りに坐ってみことばを教えて欲しいと言ひ、そのような状態で彼は召されていったということです。

そのことを聞いたとき、神のご計画によって会わせてくださった一人の信仰の先輩が、最後の最後まで主に従い通していったという信仰の勇者の最後の歩みを聞かせていただいたときに、当然、考えました。どのようにこの地上の歩みを私は終えようとするのか？と。あなたはどのようにあなたの信仰生活を終えようとするのか？私たちはみな信仰のレースを走っています。主イエス・キリストがご自身の恵みによってあなたを救ってくださったその時点から、信仰のレースは始まっています。問題はどのようにそのレースを終えるかです。「よくやった！」と神から言っていただけるように、走り続けて行くのか？それとも立ち止まって後ずさりして、主の前に無駄な時間を過ごすのか？皆さん、それはすべてあなたに係っているのです。あなたが残った人生をどのように過ごすのか？そのことを考えなければいけないし、決心しなければいけないし、そのように生きていかなければいけないのです。

感謝なことに、聖書の中にはそのような信仰の勇者たちのことがたくさん記されています。今日、敢えて、このⅡコリント4章を上げたのは、信仰のレースを走りきった私たちの愛するパウロが、私たちにもその秘訣を教えてくれるからです。パウロはどのようにして歩んで行ったのか？いつもどのようなことを思いながら生きていたのか？どうして彼はこの信仰のレースを走りきることができたのか？その五つの秘訣がこの中に記されています。残念ながら、一つひとつを細かく見て行くことはできませんが、少なくとも、皆さんにそのことを証して、願わくは、今日からその歩みをあなたが始めてくださることを期待します。

☆信仰のレースを走りきるその秘訣

A. 従順 1節

パウロはこうに言います。4：1「こういうわけで、私たちは、あわれみを受けてこの務めに任じられているのですから、勇気を失うことなく、」と、パウロは神から特別な務めをいただいたということをしっかり認識していました。どのような務めのことでしょう？みことばが明らかにしています。

・「この務め」とは？

⇒ 3節 「私たちの福音に」

4節 「キリストの栄光にかかわる福音の光」

5節 「私たちは自分自身を宣べ伝えるのではなく、主なるキリスト・イエスを宣べ伝えます。」

パウロが神からいただいた特別な務めは、彼がこうに言っている通り、それは福音の宣教に関係していることは明らかです。パウロは神から「神のすばらしい福音のメッセージを伝える」という務めをいただいたということを認識していました。だから、彼は使徒の働き20章でこのように言います。20：24「けれども、私が自分の走るべき行程を走り尽くし、主イエスから受けた、神の恵みの福音をあかしする任務を果たし終えることができるなら、私のいのちは少しも惜しいとは思いません。」と。私は神から特別な務めをいただいた、この福音のメッセージを宣べ伝えるという務めをいただいた。だから、彼はローマ人への手紙1：16で「私は福音を恥とは思いません。」と言います。皆さん、どうですか？福音を恥と

していませんか？福音を語りたいし語らなければいけないと思うけれど、どうしてもそのひと言が出て来ない。私たちはいろいろな人と話をするとき、くだらない世間話で終わっていませんか？本来なら、私たちはこの務めをいただいたとするなら、私たちはすべての会話が少なくとも、キリストの福音につながっていくようにと願いながら、祈りながら会話をしたいものです。なぜなら、パウロは「私は福音を恥とは思いません。」と言い、それは「福音は、ユダヤ人をはじめギリシヤ人にも、信じるすべての人にとって、救いを得させる神の力です。」と、福音のメッセージは人種にも性別にも年齢にも関係なく、信じるすべての人は救いを得ることができる、その力をもったメッセージだから、これが福音だということをパウロはよく知っていたからです。

この務めはパウロだけに与えられたものではありません。ある特定の人たちにだけ与えられたものでもありません。なぜなら、1節に「こういうわけで、私たちは、…」とあるからです。ということは、クリスチャンの中に例外はないのです。ここにいるすべての神の恵みによって救われた人たち、あなたにこの務めが与えられていることを今一度思い出さなければいけないのです。皆さんもよくご存じのように、大命令と言われているマタイ28：19には「それゆえ、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい。そして、父、子、聖霊の御名によってバプテスマを授け、」とあり、マルコはそれをこのように言います。16：15「全世界に出て行き、すべての造られた者に、福音を宣べ伝えなさい。」と。このような大切な務めを私たち一人ひとりにはいただいているのです。Ⅱコリント2章を見ると、パウロのこのような表現が記されています。2：15「私たちは、救われる人々の中でも、滅びる人々の中でも、神の前にかぐわしいキリストのかおりなのです。」、私たち信仰者は「キリストのかおり」であると言います。その人が通り過ぎるとそこにあるかおりが放たれる、キリストのかおりであると。

1970年に私は初めて教会に行きました。中学生でした。大阪は万博で賑わっていました。万博にはモルモン館がありましたが何かよく分かりません。クリスチャン？なるほど…とそのような時代でした。皆さんもよく憶えておられるでしょう。そのときに私が教会に誘われて、この浜寺聖書教会の伝道所であった緑町聖書教会に行くのですが、なぜ行ったのか？キリスト教に関心があったからではなく、特別なメッセンジャーが来るからでもあります。誘ってくれた人が他のすべての学生と比べたときに、違っていたからです。何か分からないけれど、このクラスメートがもっている何かは自分がもっていないものだ気付いたのです。特別伝道集会があるから来ないかと言われたとき「えっ、教会？」と聞き直しました。その人は間違いなく、パウロが言っている「キリストのかおり」を放っていたのです。何か分からないけれど、この人は私の持っていないものを持っている、だから、それを知りたいと、それがすべての始まりでした。

皆さん、その務めをあなたは神から与えられているのです。「しなければいけないから」ではなく、そういう人に私たちは造り変えられたのです。キリストがあなたのうちに住んでいるなら、そのキリストがご自身のすばらしさをあなたを通して証してくださるのです。キリストのかおりを放つのです。なぜなら、そのかおりのもとがあなたのうちにあるからです。私たちはその務めをいただいていることをしっかりと覚えながら歩んでいくことが大切です。パウロはこのようなことを言っています。4：1で「こういうわけで、私たちは、あわれみを受けてこの務めに任じられているのですから、」、つまりパウロは、これは私がいい人間だから、こういう教育を受けて来たから、これだけの知識をもっているから、これだけの経験を積んでいるからではなく、すべては神の一方的な恵みによって、神ご自身がこのような務めに私を召してくださると分かっていたのです。あなたを救われたのはあなたがいい人間だからではありません。神の恵みがあなたに及んであなたを救いへと導いてくださったからです。その恵みによって救ってくださった神が、恵みによってあなたにこの大切な務めを与えたのです。信仰者の皆さん、私たちは勇敢に出て行くことです。恵みによってあなたを救ってくださった神は、この務めを恵みによって与えてくださった、ということは、その務めをあなたができるだけ恵みを神はもうあなたに与えてくださるのです。できない働きを与えられたものではありません。だから、私たちはいろいろな屁理屈を言うことは止めなければいけません。確かに、モーセもそうでした。「私はことばの人ではありません。」と言いました。私たちは余計な話はよくしますが、肝心なことはなかなか話しません。そんな信仰者になりたくないです。

だから、どうすればいいのか？最初に、私たちは主から大切な務めをいただいた、この務めを神は一方的な恵みによって私にくださった。その神は私たちの弱さを知ってそれでもなお私たちを使わんとしてこの務めをくださったのです。だから、神に助けを求めるのです。「主よ、どうぞ今日、だれかと話すときに勇気をください。」と、だれかと話すときは祈りをもって話をします。「神さま、どうぞあなたのことを証するチャンスをください。その勇気をください。」と。パウロはそうして歩んだのです。Ⅰコリント15：10でこのように言っています。「ところが、神の恵みによって、私は今の私になりました。そして、私に対するこの神の恵みは、むだにはならず、私はほかのすべての使徒たちよりも多く働きまし

た。しかし、それは私ではなく、私にある神の恵みです。」、神は助けてくれると言います。

B. 聖潔 2 節

二つ目の秘訣は「聖潔」、聖さです。2 節に「恥ずべき隠された事を捨て、」とあります。隠すのはどうしてですか？それが恥ずかしいからです。私たちも様々な問題を実際に抱えています。

・神が望んでおられること

1. 行ないを聖める : 悪から離れる

私たちの生活において、私たちは聖さを求めて歩んで行くのです。I テサロニケ 4 : 3-7 を見てください。「神のみこころは、あなたがたが聖くなることです。あなたがたが不品行を避け、:4 各自わきまえて、自分のからだを、聖く、また尊く保ち、:5 神を知らない異邦人のように情欲におぼれず、:6 また、このようなことで、兄弟を踏みつけたり、欺いたりしないことです。なぜなら、主はこれらすべてのことについて正しくさばかれるからです。これは、私たちが前もってあなたがたに話し、きびしく警告しておいたところです。:7 神が私たちを召されたのは、汚れを行なわせるためではなく、聖潔を得させるためです。」とあります。「聖潔を得させるため」にあなたは救われたと言うのです。ですから、信仰者の皆さん、聖さを求めて生きていくのです。ペテロは旧約聖書のみことばを引用してこのように言いました。I ペテロ 1 : 16 「それは、「わたしが聖であるから、あなたがたも、聖でなければならない。」と書いてあるからです。」と。わたしによって生まれ変わったあなたは、わたしのすばらしさを証する者として聖くありなさいと言うのです。

ですから、私たちは「聖潔」を考えると、私自身自身の行動における聖さを考えることです。

2. 心を聖める : 恥ずべき隠された事を捨て

同時に、私たちは心の聖さも必要です。悪いことを悪い心で行なうことはできます。残念ながら、それは私たちの救われる前の姿です。それしかできなかったのです。なぜなら、心が悪いから行動がすべて悪かったのです。悪い心は悪い行ないを生み出します。マタイ 15 : 18-19 「しかし、口から出るものは、心から出て来ます。それは人を汚します。:19 悪い考え、殺人、姦淫、不品行、盗み、偽証、ののしりは心から出て来るからです。」、問題は心なのです。世の中の宗教は残念ながら行動を変えることはできても、心を変えることはできません。心が変わえられるのはこの神によってだけであり、この福音のメッセージによって私たちは新しくその心が造り変えられるのです。初歩的なことを話しました。

次のことを考えてください。私たちは「良いことを悪い心で」行なえるのです。行為だけを見ていればすばらしいのですが、問題は心がどのような状態にあるのかです。たとえば、与えられている様々な奉仕を、人に見せたい、人から誉められたいと自分の栄誉のためにしているなら、まさに、このことが当てはまります。パリサイ人はその通りでした。彼らの祈りも、彼らの信仰生活はすべて神ではなく、人を見ていました。もし、私たちが「自分は霊的だ」と皆に見られたいからとっていろいろなことをしているなら、残念ながら、神は喜んでおられません。ということは、私たちは動機をいつも吟味しなければなりません。I コリント 4 : 5 にはこのように記されています。「ですから、あなたがたは、主が来られるまでは、何についても、先走ったさばきをしてはいけません。主は、やみの中に隠れた事も明るみに出し、心の中のはかりごととも明らかにされます。そのとき、神から各人に対する称赞が属くのです。」と。これが神だとパウロは教えたのです。闇の中に隠れたことも神は見えておられ、それに基づいて神のさばきが下ることです。

私たちが覚えなければいけないことは、私たちの動機を神はいつも見ておられるということです。確かに、すばらしいといえる働きをしているかもしれない、しかし、問題は神が喜ばれる動機、心をもってその働きをしているかどうかです。私たちが恐れなければいけないのは、この心を見ておられる神です。I サムエル 16 : 7 に「しかし主はサムエルに仰せられた。「彼の容貌や、背の高さを見てはならない。わたしは彼を退けている。人が見るようには見ないからだ。人はうわべを見るが、主は心を見る。」とある通りです。神は私たちの心をご覧になっておられます。私たちがどのような思いをもってやっているか？です。私たちは何度も神の前に悔い改めなければならないと思いませんか？いいことをやっている途中でも、私たちは「神さま、良くない思いが出て来ます。人間的な思いが出て来ます。赦してください。」と言って悔い改めなければいけないかもしれません。そのようにして私たちはいつも自分の心の中を吟味して整えて聖めて歩んでいくことが必要です。そうしてパウロは生きたのです。ですから、パウロが言うように彼は「恥ずべき隠された事を」もう捨て去ったのです。「悪巧みに歩まず、神のことばを曲げず、真理を明らかにし、神の御前で自分自身をすべての人の良心に推薦しています。」と、パウロが言うことは、この当時、悲しいことに、コリント教会の中に偽教師たちが入り込んで来て、「パウロは偽教師だ」と言って、彼らはパウロについて偽りの情報を提供したということです。そこでパウロは自分の弁明をします。「私は聖さを求め、自分の心においても聖さを求めて歩もうとしている。あなたたちはそのことを知っているはずだ。」と。なぜなら、パウロ自身は自分の心を見ておられる神を恐れて生きていたからです。

C. 信仰 7 節

神のために歩み続けていくには、信仰のレースをしっかりと走りきっていくためには信仰が必要であると言えます。7 節に「私たちは、この宝を、土の器の中に入れているのです。それは、この測り知れない力が神のものであって、私たちから出たものでないことが明らかにされるためです。」とあります。

1. 土の器

神が託してくださったすばらしい「宝」と自分自身を対比しています。「私は土の器である」とパウロは言います。

1) 自分の弱さを知っていた

なぜ、このような表現をしたのか？彼は自分の弱さを知っていたからです。「土の器」はこの当時珍しいものではありませんでした。どこでも買えました。壊れ易い、非常に安い器です。パウロは敢えて、どこでも見かける、だれでも使える安い器をもって弱さを表わしたのです。特別に優れたものは何もないと。パウロは私たちが経験するいろいろなことを彼自身も経験して来ました。人から誤解されることも、悪口を言われることも、いろいろな辛い経験をして来ました。パウロはそのすべての状況にあって、悩んだこと、涙したこと、心が内臓が切り裂かれるような痛み、なぜ？と思うようなことを経験したことでしょう。悲しみと苦しみが自分の心を満たしてももうどうすることもできないと神の前に立つこともあったでしょう。私たちと同じように弱い器であると言います。

2) 自分の罪深さを知っていた

同時に、「土の器」ということばを使うことによって、パウロは自分の罪深さを知っているのです。なぜなら、この器は非常に壊れ易かったからです。安価であるだけでなく、これは家の中では価値あるものとして使わなかったのです。ゴミをいれたり汚物を入れたりするものでした。だから、パウロは自分を見て「おお、私は神に用いられる者です」とは思っていないのです。彼は自分を見て「私は本当にどうすることもできない者、罪深い者だ」とははっきりと知っていたのです。もし、私が神なら、私のような者を用いることなど絶対にしない。なぜなら、私はこんなに汚れているから、こんなに愚かであるからと。しかし、感謝なことに、それを知った上で神は私たちを選んだのです。そして、感謝なことに、その聖い正しい神がご自身の聖い正しい目的のために、私たちを使おうとしてくださっているのです。パウロはⅡテモテ 2 : 20 でこのように言っています。「大きな家には、金や銀の器だけでなく、木や土の器もあります。また、ある物は尊いことに、ある物は卑しいことに用います。」と、今話しているように、家の中にはいろいろなものがあるということです。高価なものもあるが安価なものもあるということです。その後 21 節、「:21 ですから、だれでも自分自身をきよめて、これらのことを離れるなら、その人は尊いことに使われる器となります。」、罪から離れることです。19 節の後半に「また、「主の御名を呼ぶ者は、だれでも不義を離れよ。」とあります。つまりパウロは、神が言われることは「もし、あなたが神の前を正しく生きているなら、神はあなたをご自身にとって尊いことに用いてくださる、そういう器としてくださる」ということだと言うのです。「その人は尊いことに使われる器となります。」と言っています。21 節「すなわち、聖められたもの、主人にとって有益なもの、あらゆる良いわざに間に合うものとなるのです。」と、この可能性があなたにあるということです。聖い神がご自身の栄光のためにあなたを大いに用いてくださる、その可能性があるのです。

どうすればいいのか？「私は特別な訓練を受けていません。」、「私はこのような経験を積んでいません。」、「私はそのような家系に生まれていません。」。そのようなことはみことばに教えられていません。みことばが教えることは、もし、あなたが神の前に正しく聖く歩んで行こうとするなら、神はあなたをご自身の尊い目的のために用いてくださるということです。そのような働き人になりたいと思いませんか？この神によって大いに用いていただけるような器になることができるのです。皆さん、なりたいたと思いませんか？そのようにして私たちは人生のゴールを迎えることができるのです。この神が「わたしがあなたを使う、わたしの目的のためにあなたを使う」と言われるのです。今、見たように、その務めがどのようなものかは記されていません。なぜなら、みながいろいろな働きをしているからです。問題は、何をするかではなく、どんな人になるかです。私たちは何をしているかということにばかり関心がいきいますが、私たちがどのような人として成長しているかです。神が言われることは、あなたが神の前を聖く歩んでいくな「あなたを使う」です。教会で働いていようといまいと、学生であろうと、定年退職を迎えていようと、そのような条件はここに記されていません。言われているのは「神の前に聖くあること」です。

パウロがこのように「私は土の器だ」といったとき、彼は自分の弱さを知り、自分の罪深さを知っていました。

2. 宝のすばらしさを知っていた

同時に、彼はこの宝のすばらしさも知っています。先ほどから見てるように、この福音のメッセー

ジによって罪人が救われるのです。恐らく、皆さんもいろいろなことを経験された中で、特に、信仰者としてだれかに福音を語り、その人がイエス・キリストを信じたときの喜びは、他のどんな喜びとも比較にならないでしょう。ひとりの罪人が悔い改めるなら天使たちが喜ぶと言いますが、私たちも喜びます。「感謝です、神さま！ひとりの人が悔い改めました。」と。その人が救われる福音というすばらしいメッセージを神はあなたに託してくれたのです。罪人が救われる唯一のメッセージです。罪人を救うために神がお語りになった唯一のメッセージです。あの十字架に架かったイエス・キリスト、復活されたイエス・キリストを私たちは宣べ伝えるのです。

私たちはこの地上にあって大切な目的をいただいています。それは私たちの主なる神のすばらしさを、その方の偉大さを、その方によってのみ与えられる救いのすばらしさを世に証していくのです。この神はすばらしい神だ、この神がくださる救いはすばらしい、この神が約束された喜びはこの世のいかなる喜びにも勝るものであり、この神がくださる希望は他のどのようなものによっても得ることのできないものであると。皆さん、あなたが信じていることをあなたは世に証していくのです。そのために、神はあなたを救ってくださって、そのために今日という日を私たちに与えてくださっているのです。

もちろん、そのためには神の助けが必要です。この世にあってそのような働きを為していくことは大変なことです。感謝なことに、神は私たちを助けてくださいます。Ⅱテモテ4：17のみことばを聞いてください。パウロ自身の遺言とも言えることばです。「しかし、主は、私とともに立ち、私に力を与えてくださいました。それは、私を通してみことばが余すところなく宣べ伝えられ、すべての国の人々がみことばを聞くようになるためでした。私はししの口から助け出されました。」と、あなたはひとりではない、神があなたとともにいて、神があなたに力を与え、神があなたを用いてくださる、このような人生を私たちは歩んでいくことができるのです。イエスを知らなければ、ただ、私たちは明日を恐れて今日を生きるしかなかったのです。死んだ後どうなるのかも分からないで、ただ何となく今日を必死に生きていく、しかし、救いに与った私たちは永遠が約束され保証されたのです。そして、感謝なことに、この地上にあって今日という日を神を私たちを使って神のみわざを為してくださるのです。私たちは人々に私たちの神がどんなにすばらしい方かを伝え続けていくことができるのです。そのために、私たちは今日を生きているのです。

3. 神の力を知っていた

苦しみの中でも喜び感謝できる、物がなくても私たちは満ち足りている、絶望の中でも私たちは希望をもって生きていく、なぜ、そのようなことができるのか、神が私たちの力だからです。神がそのような歩みを私たちを通して為されるのです。だから、私たちはこの方のすばらしさが証されることを願いながら生きていくのです。パウロが言ったように「この測り知れない力が神のものであって、私たちから出たものでないことが明らかにされるためです。」と。あなたがしっかり主を見上げて、そして、主のみことばに従っていくなら、神はあなたを通してご自身の力を示してくださり、人々はあなたを通してこの力がこの人のうちにいる神からのものであることを知るのです。そして、彼らはあなたのうちにキリストのかおりをかぐのです。こうして私たちはこの地上を歩んでいくことができるのです。

パウロはピリピ4：13に「私は、私を強くしてくださる方によって、どんなことでもできるのです。」と記しています。私たちは、

- ・福音を誇る者となる
- ・福音を語れることを感謝する者となる
- ・福音を主の助けによって語る者となる

神の助けをいただきながら、この福音のメッセージを語り続けていくのです。

D. 希望 14節

14節「それは、主イエスをよみがえらせた方が、私たちをもイエスとともによみがえらせ、あなたがたといっしょに御前に立たせてくださることを知っているからです。」、パウロは後にどうなるかということを知っていました。「私はイエス・キリストの前に立つ」、そのことを待ち望みながら今日を生きていました。皆さんに一つのチャレンジを与えなければいけません。「あなたは今日、イエスにお会いする備えがきているかどうか？」です。別の言い方をすれば「今日、あなたがイエスの前に立つ時に、イエスはあなたに何と言われますか？」。イエスはあなたに何とおっしゃるでしょう？恐ろしいことは、弁解ができないということです。なぜなら、神はすべてを知っているからです。

Ⅱテモテ4：8「今からは、義の栄冠が私のために用意されているだけです。かの日には、正しい審判者である主が、それを私に授けてくださるのです。私だけでなく、主の現われを慕っている者には、だれにでも授けてくださるのです。」

テトス2：13「祝福された望み、すなわち、大いなる神であり私たちの救い主であるキリスト・イエスの栄光ある現われを待ち望むようにと教えさとしたからです。」

パウロが私たちに教えてくれていることは、「従順になりなさい、聖潔でありなさい、聖くありなさい。しっかりと信仰をもって主を信頼して歩んで行きなさい、力は主にあるから。そして、いつも希望を覚えていなさい。イエスの前に立つこと、それを思いながら今日生きていきなさい。」です。

E. 専心 15節

そして、5番目は「専心」です。15節に「**すべてのことはあなたがたのためであり、それは、恵みがますます多くの人々に及んで感謝が満ちあふれ、神の栄光が現われるようになるためです。**」、だれのために、また、何のために生きているのかを覚えていなさいと言います。パウロは「神の栄光が現わされること、それが私の生きている目的です。」と言います。ここに記されているように「**恵みがますます多くの人々に及んで感謝が満ちあふれ、**」と、つまり、罪人が救われ、彼らが神に感謝をささげることによって神の栄光が現わされるということです。パウロはそのことを言うのです。だから、パウロはこの福音のメッセージを喜んで語ろうとしたのです。なぜなら、人が救われたら、救ってくださった神の栄光が現わされるからです。

1) 主の模範

主イエスはそのようにして父なる神の栄光のために歩まれました。父なる神の栄光を現わすことだけを目的に生きられました。ヨハネ17:4「**あなたがわたしに行なわせるためにお与えになったわざを、わたしは成し遂げて、地上であなたの栄光を現わしました。**」、私たちもそのために生きているのです。そのために私たちは救われたのです。

2) 人生の目的

考えなければいけないことは、私たちが喜ぶかどうかではなく、主が喜んでくださっているかどうかです。私たちが満足するかどうかなどどうでもいいのです。問題は主が満足しておられるかどうかです。私たちの思い通りかどうかではなく、主のみこころの通りかどうか、そのことを私たちが考えることが必要だと言うのです。主のすばらしさをこの世にあって明らかにすること、それが私たちの生きる目的です。Ⅰコリント6:20「**あなたがたは、代価を払って買い取られたのです。ですから自分のからだをもって、神の栄光を現わしなさい。**」、Ⅰコリント10:31「**こういうわけで、あなたがたは、食べるにも、飲むにも、何をするにも、ただ神の栄光を現わすためにしなさい。**」

先々週の週末、日曜日の奉仕のためにある牧師先生の家に泊まらせていただきました。エストライク先生のために祈ってくださっている教会の牧師先生です。その牧師先生は以前から存じ上げており非常に尊敬しているのですが、そのご自宅に泊めていただきました。いろんな話をしている中で、この先生のお父さんのことに話が及びました。ニュージャージーに生まれて、海軍に行き、そこでは無敵のボクサーであった、スポーツ万能だったようです。アメリカのメジャーリーグのトリプルAの二軍ではありますが、その一番上のところで野球もしていたと言います。そのような人が信仰をもったとき神が彼を変えてくださったのです。教会にあって彼はすべての働きにいつも忠実であった、教会の集会にいつも来ていました。そして、驚くべきことは、教会外での生活です。彼は教会外において宣教師だったと言います。宣教のことをいつも考えながら信仰を生きた人物だったと言うのです。彼はいつもこのような祈りをもって一日を迎えたと言います。「神さま、今日、私がだれかに会えるように。だれかの励ましになるように、だれかの祝福になれるように。」と、そして、実際に、ハンバーガーのお店に行くと、彼はだれかを探しながら全く見知らぬ人のところに行き、その人と話し始めるのです。彼はこう言います。「あなたのために今祈っても良いですか?」と、その人の名前を聞き、また、次のときにそのハンバーガー店でその人と出会ったら、その人の名前を覚えていて「〇〇さん、この間祈ったけれどもその後どうなった?」と聞きます。ドライブスルーを通る時も、物を受ける時も、イエスの話をし、そして、食べ物をもったら移動しなければいけないので、またそこを通った時にその続きを次の時にするという、そのような人だったと言います。彼はいつも福音のトラクトを持っていて、そこに1ドル札をいつも挟んでいたのです。大都会には路上生活者がたくさんいます。「ああ、あの人たちは…」ではなく、彼はそのような人に1ドルと一っしょに福音のメッセージを託していったと言います。

この人はどのように主のすばらしさを人々に証しようかをいつも考えて生きていたのです。だれかにいつも祝福を与えたい、今日だれかに会ってその人に祝福を与えたい、そのことを考えただけでないのです。実践していたのです。ある日曜日の午後、礼拝から帰って来て、昼食の後、彼は自分の椅子に座っていました。すると突然、彼は両手をあげて息を引き取ったと言います。召されたのです。こうして彼はこの地上での生活を終えたのです。こういう信仰の先輩もいるのです。最後の最後に主に感謝をささげて、そして、息を引き取った。この人がいつも家族に言ったことは「どんな時でも前進しなさい! 前進しなさい!」だったとのこと。あなたがどのように神から託された信仰のレースを走り続けていくのか、それはあなた自身が決めなければいけないことです。

しかし、今我々が見て来たように、パウロと同じように歩むなら、神が喜んでくださる。なぜなら、それが主が望んでいる生き方だからです。無駄な日々を、無駄な時間を過ごすことがないように、主にお会いするその時を思いながら今日を歩んでください。信仰のレースをしっかりと、途中で放棄するのではなく走りきってください。そのように生きたのです。パウロも、そして多くの信仰の勇者たちも。あなたがそのように歩むことを心から願い、神があなたを祝してくださることを願います。

《考えましょう》

1. あなたに与えられた務めは何ですか？
2. 福音を語るのが難しいと思うのはどうしてでしょう？
3. どうすれば克服できるのでしょうか？
4. あなたは今日、キリストにお会いする備えができていますか？